



SUZUKA
NATIONAL
HOSPITAL

鈴鹿の風

2008.5

第3号

「独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院」ニュース

<病院理念>

- 私たちは、国民に奉仕する立場から、政策医療である筋ジストロフィー・重症心身障害・神経難病の分野において、患者様本位で質の高い専門医療を提供します。
- 私たちは、充実した医療と健全な経営を心掛け、常に意識改革を怠りません。



フォーミュラ・ニッポン／鈴鹿サーキット

Contents

トピックス リハビリテーション科のご紹介／医局通信 ～内科	1-2
トピックス 医療安全管理室の活動について／お知らせ	
看護だより 筋ジストロフィー病棟での療育活動における看護の取り組み	3-4
療育通信 ムーブメント療育について／病院ボランティア募集	
外来診察担当表／交通案内／編集後記	5

トピックス

リハビリテーション科のご紹介

運動療法主任 白石 弘 樹

当院のリハビリテーション科についてご紹介いたします。リハビリテーションとは、「再び機能を獲得する」などといった意味を指します。この分野では、理学療法・作業療法・言語聴覚療法の3つに分けられ、当院では、その内の理学療法・作業療法を行っています。当科では理学療法士3名、作業療法士3名、マッサージ師1名の総勢7名で入院、外来のリハビリテーションに携わっております。



「理学療法とはどんな治療なのか?」といいますと、主に患者様の基本動作(例えば、車椅子に座る、立って歩くなどといった動作のことを指します)を獲得してもらうために、関節可動域訓練・



物理機器による筋肉の痛みの緩和、重りを加えて筋肉トレーニングなどを行った後、寝返り・起き上がり・立ち上がりなどといった日常生活動作訓練を行います。

次に、「作業療法とはどんな治療なのか?」といいますと、主に患者様の応用動作(例えば、字を書く、調理をするなどといった動作のことを指します)を獲得してもらうために、関節

可動域訓練・物理機器による筋肉の痛みの緩和、重りを加えて筋肉トレーニングなどを行った後、ビーズでのれんを作ったり、ケーキを作ったり、塗り絵の練習をしたりなどといった日常生活の中で色々考えたり、楽しんだりするための動作訓練を行います。

当科のモットーは、「病は気から、気を病まないように明るく楽しく!」です。この言葉をスタッフが一人一人意識して、患者様に質の高いリハビリテーションを提供できるよう頑張っています!

医局短信～内科

副院長 安間文彦 内科医長 野口雅弘

当院内科では、心臓・血管をみる循環器科(心不全、高血圧、不整脈など)、肺・気道をみる呼吸器科(息切れ、喘息、肺炎、肺がんなど)、胃・腸・肝臓などをみる消化器科のそれぞれ専門医師による診療を行っています。筋ジストロフィー、重症心身障害、神経難病の患者さまの内科診療にも力を入れています。本院は、高齢化社会に対応した老人医療、地域に根ざした質の高い医療を目指しています。

医療安全管理室の活動について

医療安全管理係長 相原 えつ子



医療安全管理室は「医療安全」の文字通り、入院患者の皆様が安心・安全に療養生活が送られますように、医療事故防止をモットーに活動している部署です。当院は筋ジス、重心、神経難病の患者様の療養施設で、その疾患の特徴から人工呼吸器を使用したり、全面介助のケアを受けられている方が多く入院しておられます。その中での医療事故防止は人工呼吸器の安全使用・管理や専門的な知識・技術をふまえた安全なケアの提供が主軸となっているといえます。

当院は医療安全管理室の設置から5年が経過し、ヒヤリハット報告等の集積・分析もされ、再発予防策の提示・実施の活動もできるようになってきています。今後も医療安全を保つため、日々広報活動、現場での情報収集、改善策等の提示と実施、マニュアル整備、研修会の実施・参加などの活動を継続し、職員の皆様と共に事故防止に力を注いで行く所存ですのでどうぞよろしくお願い致します。

医療安全管理室からのお知らせ



◆「ヒヤリハット事例集」を活用しましょう◆

医療安全管理推進部会では、平成20年1月に「ヒヤリハット事例集」を発行しました。

鈴鹿病院でよくあるヒヤリハット事例とその対策を平成17年3月～平成19年11月までの間に、提出していただいたヒヤリハット報告でまとめました薬剤、転倒転落、他傷、ドレーン・チューブ、呼吸器経管栄養、栄養科、検査科、医事係、放射線科ごとに抜粋した事例を掲載しています。是非再発防止に向けて「ヒヤリハット事例集」を活用してください。

お知らせ 患者様・ご家族様へ医事係より受給者証・保険証の確認のお願い

新しい障害福祉サービス受給者証・療養介護医療受給者証・障害児施設受給者証・障害児施設医療受給者証・特定疾患の受給者証・心身障害者福祉医療受給者証・国民健康保険証・国民健康保険標準負担額減額認定証等の受給者証・保険証は自己負担額に影響しますので、更新時には必ず新しい受給者証を受付窓口(医事係)までお持ち下さい。

また、月一回の保険証確認にご協力下さい。

看護課だより

筋ジストロフィー病棟での療育活動における看護の取り組み

3病棟 副看護師長 榎木 保子
同 石井 麻理

3病棟では、筋ジストロフィー疾患患者様だけでなく神経難病患者様も含めた38名の方が療養生活を送っています。このうち27名の患者様が人工呼吸器を装着しており、行動が制限されています。私達はこのような患者様が、少しでもベッドから離れて生活する時間を確保できるよう日々援助しています。

“患者の一日一日を大切に思い、根拠・安全性に基づいた患者の目線に立った看護を提供する”という病棟目標を掲げ、患者様を支えているなかで、療育における看護の役割は重要です。

療育は児童指導員や保育士が中心に企画していますが、看護スタッフは車椅子等への移乗、



人工呼吸器の管理、吸引の準備・実施、患者の状態観察・対応などを行い、療育活動に安全に参加できるようサポートしています。よって現在、ほぼ全員の患者様が療育に参加しています。

このように、患者様が心から楽しい時間を過ごせ、みんなの笑顔が絶えないようにスタッフが一丸となり取り組んでいます。



病院ボランティア募集

ボランティア活動は入院している方々の生活が豊かになるよう支援する活動です。活動内容は余暇活動支援(パソコン・手芸・園芸等のお手伝い、本のページめくり、囲碁将棋の相手、各種行事のお手伝い)や外出支援、環境整備(縫製、車椅子清掃等)などです。

鈴鹿市社会福祉協議会を通して募集しているボランティア活動もあります。あなたも鈴鹿病院でボランティア活動してみませんか。

お問い合わせは、療育指導室(愛田)まで



ムーブメント療育について

主任保育士 馬田光代

今回は重症心身障害児(者)療育の3本柱のひとつ「ムーブメント療育」についてご紹介します。

ムーブメント療育(教育)はアメリカの教育者マリアヌ・フロスティッグとその協力者たちが多年にわたる研究と実践を集大成し体系づけたものです。この教育方法は世界各国で乳幼児・児童のみならず、学習困難児など障害のある人たちの教育に特に効果があることが実証されており、鈴鹿病院でも重症児(者)病棟で療育活動として取り入れています。ムーブメント療育では患者さん自身が体を動かしたり、あるいは動かしてもらったりすることにより、「こころ・あたま・からだ」の調和の取れた発達を促します。楽しみながら体を動かすことで、運動機能・感覚機能を発達させていく方法です。

患者さんたちの大好きな遊具には、トランポリンやパラシュート、ゆらんこ、ボールプールなどがあります。トランポリンのダイナミックな動きにキャーキャーと笑ったり、カラフルなパラシュートの色彩に思わず手を伸ばしたり…。患者さんの生き生きとした動きや楽しそうな表情が支援する側も伝わり、プレイルーム全体が楽しい空間になる瞬間を実感できる療育活動となっています。



外来診察担当表 (2008年4月1日 現在)

	月	火	水	木	金
神 経 内 科	小 長 谷	酒 井	田 村	小 長 谷	久 留
内 科	奥 村	木 村	安 間	安 間	野 口
循 環 器 科					
小 児 科	(予 約)	(予 約)	(予 約)	(予 約)	(予 約)
整 形 外 科		田 中 (午後 装具外来)			田 中
リハビリテーション科					
歯 科	清 水		松 村	鈴 木	
皮 膚 科		萩 原			

- ◆ 外来受付は8:30~11:00、診療開始時間は9:00
- ◆ 歯科は身体障害者の方に限ります。
- ◆ 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越し下さい)。
- ◆ 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約下さい。
- ◆ 土曜日、日曜日、祝祭日は休診とします。



交通案内

- ◆ JR「加佐登」駅より徒歩8分
- ◆ 東名阪「鈴鹿」I.C.より車8分
- ◆ 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- ◆ 三重交通バス(荒神山口行/椿大神社行)「加佐登神社前」下車すぐ
- ◆ 鈴鹿市西部地域コミュニティバス 椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ



◆ 発行
平成20年5月
独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院
〒513-8501
三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号
Tel. 059-378-1321(代)
Fax. 059-378-7083
<http://www.hosp.go.jp/~suzukaww/>

編集後記

新緑のまぶしい季節となりました。新人職員さんたちのきらきらの瞳と一生懸命な姿に、学ぶことが多い毎日です。
※編集部では「鈴鹿の風」巻頭写真等を募集しています。お気軽にお問い合わせ下さい。(村松順子)